

令和 6 年度		
氏 名	ほしの かつみ 星野 勝美	
生 年	昭和 45 年生	
住 所	愛知県西尾市	
品 目	てん茶 ・ 摘採期前に茶園を被覆資材で覆った「覆下茶園」から摘採した茶葉を蒸熱し、揉まずに、てん茶炉等で乾燥させて製造。てん茶を茶臼等で微粉末状に製造したものが「抹茶」 ・ 「西尾の抹茶」（地域団体商標、平成 21 年）の起源は鎌倉時代に遡り、明治時代に宇治から茶種と製茶技術を導入、大正時代に生産が本格化、現在では稲荷山付近の 200ha の茶園の大半がてん茶 ・ 遮光栽培で生産された茶葉を三河式碾茶乾燥炉で乾燥して抹茶に加工することにより、鮮やかな深緑色の外観と上品な香り、渋味が少ないのが特徴 ・ 西尾の抹茶を生産農家と販売卸業者が一丸となって世界に PR・輸出	
技 術	適期摘採など茶品質を考慮した栽培管理、輸出に向けた減農薬栽培の実施 ・ 平成 20 年に親元就農した後、適期摘採や作業効率向上に向けて、棚下用乗用型摘採機を導入し、経営面積を拡大（2.6ha から 4.0ha へ） ・ 海外輸出に向けた減農薬栽培（農薬散布回数の削減、交信攪乱剤の導入など） ・ 棚被覆を中心に優先品種への改植 ・ 愛知県や京都府の試験場で開発された技術を基本に、自園での実証を踏まえ、適切な被覆資材や被覆時期の設定などを工夫	
活 動 状 況	・ 愛知県茶業連合会の副会長として、県全体の技術向上に向けて、品評会茶を中心に、若手生産者に技術指導 ・ 地元小学校の茶園管理担当教員に対する技術指導 ・ 学校教育の場での茶を活用した食育	
相 談 に 応じられる 分野・内容	・ てん茶栽培における被覆資材と被覆方法、被覆時期等の栽培管理 ・ 肥料の効率的な施用方法 ・ 伝統的な茶摘み方法	
受 賞 歴 等	平成 29 年度 農業経営士 令和 5 年度 愛知県茶品評会てん茶の部 2 等・3 等入賞	
主 な 役 職	平成 26 年度～平成 31 年度 吉良茶業組合 副組合長 令和 2 年度～令和 5 年度 吉良茶業組合 組合長 令和 6 年度～現在 愛知県茶業連合会 副会長	
H P		

